

CASBEE京都-新築(2011年版)
Meiji京都東山ビル新築工事

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.3
Q1 室内環境								2.4
1 音環境								2.4
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル					2.1	0.15	2.7	1.00
2 設備騒音対策					3.0	0.47	3.0	0.50
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能					3.0	1.00	3.0	0.50
2 界壁遮音性能					1.2	0.47	2.4	0.50
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					1.0	0.88	1.0	0.30
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.12	3.0	0.30
1.3 吸音					1.0	-	3.0	0.20
					3.0	-	3.0	0.20
					3.0	0.06	1.0	-
2 温熱環境								1.8
2.1 室温制御								
1 室温					2.6	0.35	1.0	1.00
2 負荷変動・追従制御性					2.3	0.50	1.0	1.00
3 外皮性能					3.0	0.55	-	-
4 ゾーン別制御性					1.0	0.34	1.0	1.00
5 温度・湿度制御					3.0	0.11	-	-
6 個別制御					-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮					-	-	-	-
8 監視システム					-	-	-	-
2.2 湿度制御					3.0	0.20	-	-
2.3 空調方式					3.0	0.30	-	-
3 光・視環境								2.9
3.1 昼光利用								
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	2.3	0.25	3.5	1.00
2 方位別開口					1.8	0.30	4.0	0.50
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)	1.0	0.60	5.0	0.50
3.2 グレア対策					-	-	3.0	0.30
1 照明器具のグレア					3.0	0.40	3.0	0.20
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容)	2.0	0.30	3.0	0.50
3 映り込み対策					-	-	-	-
3.3 照度					3.0	0.15	-	-
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-
4 空気質環境								2.9
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質					2.8	0.25	3.0	1.00
2 アスベスト対策					3.0	0.57	3.0	0.63
3 ダニ・カビ等					3.0	1.00	3.0	1.00
4 レジオネラ対策					-	-	-	-
4.2 換気								
1 換気量					3.0	0.37	3.0	0.38
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.46	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.08	3.0	0.33
4 給気計画					3.0	0.46	3.0	0.33
4.3 運用管理					1.0	0.06	-	-
1 CO ₂ の監視					1.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御					1.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能								2.4
1 機能性								2.1
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性					2.2	0.40	2.0	1.00
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.40	2.0	0.60
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	0.10	3.0	-
1.2 心理性・快適性					1.0	0.10	2.0	1.00
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点)	3.0	0.80	-	-
2 リフレッシュスペース					1.1	0.30	2.0	0.40
3 内装計画				●とも D(独自基準)	3.0	0.10	3.0	0.50
1.3 維持管理					1.0	0.80	1.0	0.50
1 維持管理に配慮した設計					2.5	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性								2.7
2.1 耐震・免震								
1 耐震性					2.7	0.31	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.48	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.33	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.23	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.09	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.08	-	-
					3.0	0.15	-	-
					3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性					1.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.9	0.29	2.2	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					3.6	0.09	2.4	0.50	
1	階高のゆとり			階高3.71mとした	4.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比 事務所:0.21 住居:0.37	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					2.0	0.09	2.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	0.82	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.31	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.6
1 建物の熱負荷抑制					1.0	0.34	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用					3.1	0.21	-	-	3.1
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		2.3	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電の利用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					3.7	0.38	-	-	3.7
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=51.4%	5.0		-	-	
集合住宅の評価					3.3		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.07	-	-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護					2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.90	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.10	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.6	0.22	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.5	0.68	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮					3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮					2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる